

※検体採取時の患者身元確認方法

患者さん自身に名前と生年月日もしくは年齢を言っていただき確認します。
入院患者さんについてはネームタグ等で確認します。

※事前準備や臨床情報についての確認方法

事前準備や臨床情報(絶食状態、薬物療法状態、採血のタイミングなど)については口頭もしくは電子カルテにて確認します。

※採血方法

日本臨床検査標準協議会が発行した「標準採血法ガイドライン」に則り施行しています。

※採血について

採血を受けられる患者さんへ

検査部では採血を「安全に」「間違いなく」行うため、以下のことを施行させていただいています。ご協力くださいますよう、よろしくお願致します。

ご本人の確認

「採血取り間違い防止」のため、ご自身の姓名とお年をお伺いしています。

アルコールに過敏な方の確認

採血時の消毒薬でかゆみ・発疹を初めとするアレルギー症状が出現することがあります。

◎アルコールに過敏な方は、お申し出ください。
他の消毒薬に変更いたします。

採血後の止血

採血した後血が止まりにくかったり、跡が青くなったりすることがあります。採血後の不十分な止血操作などがおもな原因です。

採血後5分間程度、採血したところを(もますに)しっかり押さえて止血していただきますようお願い致します。
◎ワーファリンなど血液をサラサラにするお薬を服用されている患者さんは、お申し出ください。

検査を終了した残余検体の使用について

検査結果を正確に迅速に提供するために、精度管理、医療従事者の教育、異常値の原因究明、新しい検査の導入及び精度向上などに検査に使用した検体の残り(残余検体)を再利用させていただきます。

残余検体の再利用にあたっては『臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について-日本臨床検査医学会の見解-』を遵守し、個人が特定されない方法で行います。

下記に該当する方は採血スタッフにお申し出ください

- ◎止血時のテープにかぶれやすい方
- ◎採血時にご気分が悪くなられる方
- ◎乳房切除手術をうけられた方
- ◎残余検体の再利用にご承諾いただけない方

採血時の疑問など、ご不明な点は遠慮なくスタッフにお問ください。
また、検査結果に関するお問い合わせは主治医にお尋ねください。

中央検査部 採血室

採血に伴う合併症について

検査のために静脈内に注射針を刺す行為を実施します。基本的には安全に実施できますが、ごくまれに以下のような合併症の報告がありますので、ご承知おきください。

止血困難・内出血

針を刺した場所を5分ほどしっかり押さえて予防してください。
ただし、内出血があってもほとんどが1週間ほどで自然治癒します。

神経損傷

非常にまれですが、神経を損傷することがあります。
採血後も手指へ広がる痛み・しびれなどが持続します。
針を刺したことによりひどい痛みやしびれを感じたらお申し出ください。

血管迷走神経反応(採血前後の気分不良)

針を刺した後一時的に血圧が低下するため、めまい・気分不快感・意識消失などをひきおこします。
心理的に緊張・不安が強いと起こりやすいとされ、採血前におこることもあります。

◎緊張しやすい方などで、横になったの採血を希望される方はお申し出ください。

これらの合併症が起きた場合には最善の処置を行います。
合併症についてわからないことがございましたら、
主治医・採血スタッフにお尋ねください。

中央検査部 採血室

血液検査に必要な手技 「採血について」

採血により、
体の中を流れている血液を検査のために採取いたします。

この検査は、「患者さんの病気の診断・病態把握」のために
必須な医療行為です。

採血（検査）は、その必要性について、担当医の説明を十分
に聞き、納得・同意したうえでお受けください。

採血室での外来患者さんの採血は、
国家資格を有する「看護師」と「臨床検査技師」が担当し
ており、十分な管理・教育のもとに細心の注意を払って、
実施させていただいています。

しかし、時には「採血針を刺しても採血できない場合」・
「1回の採血で必要量を採取できない場合」があります。
その際には、針を刺す場所を変えて再度、採血させてい
だきますことをご了承くださいますようお願い申し上げます。

また、まれに採血に伴う合併症がおこることがありますが、
これに関しては、「採血に伴う合併症」をお読みください。

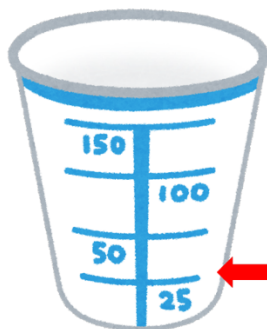
以上の点をご了解の上、採血をお受けいただきますよう
お願い申し上げます。

また、円滑な採血の施行には、患者さんのご協力も必要と
なりますことを何卒ご理解ください

中央検査部 採血室

※採尿方法について

尿の採り方について



出始めの尿は
入れないでください

途中の尿を
入れてください
一番下の線まで
(25mlぐらい)

最後の尿は
入れないでください

検査によって採り方がちがうことがあります。
受付でお伝えした通りに採ってください。

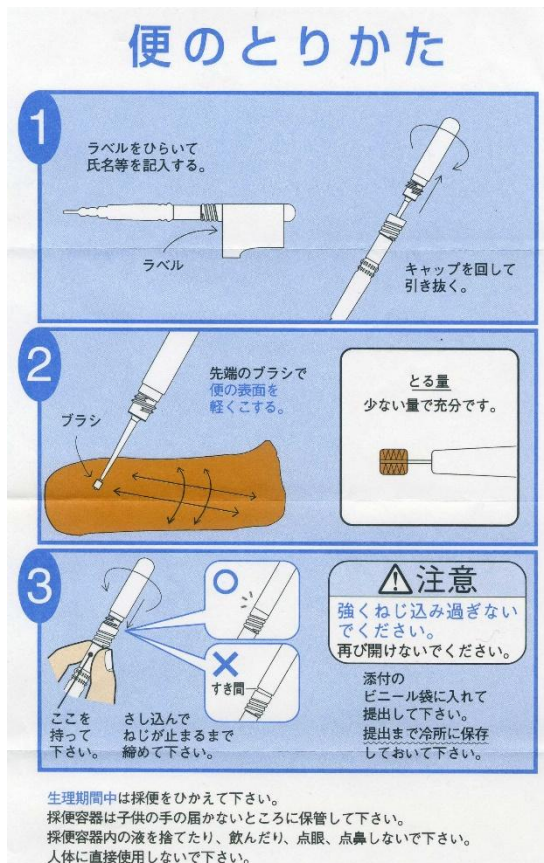
尿が出ない、少ない、生理中の方は
尿提出窓口に声をかけてください。

中央検査部

※外来持ち帰り検査について

患者さん自身に検体(便、喀痰、尿など)を採取していただく場合があります。
採取方法は以下のとおりです。

《便の採取方法》

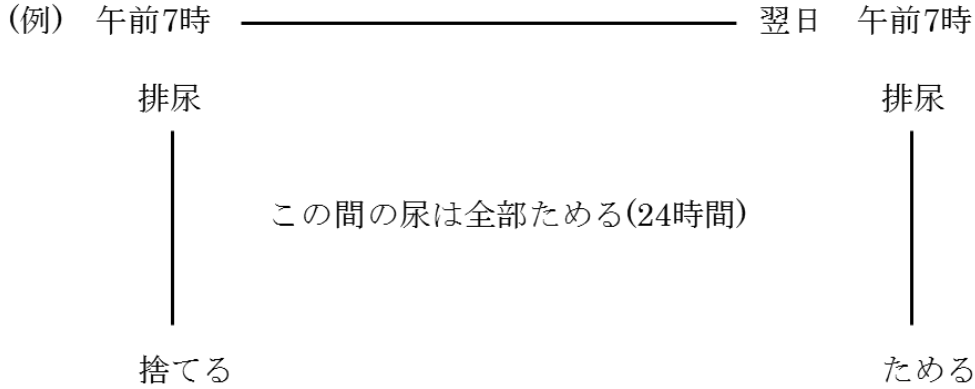


◎採便容器が2つある場合は、日を変えて採ってください。

◎採ったあとは冷蔵庫に保存し、翌日までに持参してください。

◎9:00~16:00までに直接、中央検査部受付へお持ちください。
(土曜・日曜・祝日・年末年始を除く)

《24時間尿のため方》



- ◎終了した当日の午後1時まで、中央検査部受付まで提出してください。
- ◎土曜・日曜・祝日は、休診ですのでご持参しないでください。

《喀痰の採取方法》

リラックスしましょう。 肺のまわりの筋肉がほぐれて、たっぷり空気がはいるようになります。

1 うがいをします。
水分をとる前に、お口の中をリフレッシュします。

2 水を飲みます。
「たん」がやわらかくなり、やすくなります。

すっきりと「たん」をだすことができれば、呼吸するのも楽になり、病気にもかかりにくくなります。健康のためにも、毎日の日課として「たん」をだすことをおすすめします。

3 軽く体操します。 力をぬくための体操をおすすめします。

肩の上げおろし
【肩の筋肉をほぐします。】

首を左右にまげる
【首の筋肉をほぐします。】

胸をほる
【胸の筋肉をほぐします。】

深呼吸しましょう。 肺全体から「たん」を集めて、しっかり押しだせるようになります。

4 鼻から息を吸います。
1、2 リズムをとりながら
お腹にあてた手をはねかえすように
お腹をふくらませる

5 口をすぼめて息を吐きます。
3、4、5、6 吸うときの倍の時間をかけて
ゆっくりと
お腹にあてた手でおさえるように
お腹をへこませる
くりかえす

最低でも5回以上くりかえし、「たん」がやすくなるまでつづけます。

「たん」をだしましょう。

6 水を飲みます。

7 大きく深呼吸をした後、強く咳をして「たん」をだします。